

# 2018情報通信月間参加行事 報告書

行事ID	Cc042L	行事名	周波数資源開発シンポジウム2018	
行事形式	講演会	主催団体	国立研究開発法人情報通信研究機構 一般社団法人電波産業会	
開催日	2018年7月6日		開催場所	明治記念館
行事参加者数	256		WebサイトURL	<a href="https://www.arib.or.jp/osirase/seminar/index.html">https://www.arib.or.jp/osirase/seminar/index.html</a>
行事実施概要・アピール等				
<p>「モビリティの未来を拓く新たな電波の有効利用」をテーマにした「周波数資源開発シンポジウム2018」が、一般社団法人電波産業会及び国立研究開発法人情報通信研究機構主催、総務省後援により、明治記念館 蓬莱の間（港区元赤坂）において開催されました。</p> <p>電波利用が更に拡大する2020～2030年代の超スマート社会に向けて、鉄道や船舶、ドローン、航空機、衛星など、モビリティ分野での新たな周波数の利用や既存システムの有効利用は重要課題となっています。</p> <p>本シンポジウムでは、モビリティの観点から陸海空それぞれにおける最新の無線利用技術に焦点を当て、新たな電波の有効利用方法、市場動向、政策等について、産学官の専門家に講演頂きました。</p> <p>本シンポジウムでは、国立研究開発法人情報通信研究機構の門脇直人理事が開会の挨拶を行い、総務省総合通信基盤局の竹内芳明電波部長から来賓挨拶をいただきました。総務省総合通信基盤局の野崎雅稔電波政策課長から「最近の電波政策の動向について」の演題で基調講演をいただいた後、上智大学の服部武客員教授から「新たな電波利用が拓く2030年代のモビリティ」、三菱電機株式会社の川本真紀夫担当部長から「ミリ波帯の利活用で実現する未来の鉄道」、スカパーJSAT株式会社の稲村賢治事業戦略部長から「モビリティ時代における衛星の新たな役割」、東京海洋大学の庄司るり教授から「海洋ブロードバンド通信の実現に向けて」、国立研究開発法人情報通信研究機構の三浦龍上席研究員から「目視外の安全なドローン運用を支える新たな電波利用技術について」の演題で有意義なご講演をいただきました。</p>				

←ロードバース…セル内で改行する時はAltを押しながらEnterを押してください。

